IR ニュース

2020 年 10 月　<第 8 号>

福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

巻頭言

エンロールメント・マネジメントから考える大学の在り方

第 7 号の巻頭言でも紹介した「福山大学 IR 指標集」は、大区分として「教学」「研究」「財務・経営」を置き、現時点で 176 の指標を定めています。「教学」「研究」「財務・経営」のデータは、大学の在り方を考えるとき、何れも重要な視点です。しかし、今年の新型コロナウイルス感染症対策を振り返ると、どの大学も「教学」に関する問題を最優先にしてきたと思います。それは「教学」で扱う「エンロールメント・マネジメント」が、学生にとって最も重要な問題だからです。本学の「エンロールメント・マネジメント」は、36 の指標（オープンキャンパス、入試、授業料、奨学金、休学・退学率、卒業率、就職率など）から構成され、学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析して、大学生活を支援する役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症は、卒業式及び入学式の中止、対面授業やクラブ活動の自粛など、大学キャンパスの日常を激変させました。その一方で、遠隔授業による ICT 教育の推進、在宅勤務やオンライン会議による働き方のパラダイムシフトも感じさせています。そして、大学 IR においても、新型コロナウイルス感染症対策から、最優先すべきは「エンロールメント・マネジメント」であることが明確となりました。

本学 IR 室では、「エンロールメント・マネジメント」を最優先課題と位置づけ、学生支援へのニーズ・要望を収集し、IR 指標でもある「学生生活・学生支援の満足度」を向上させることが、今後の大学の在り方を考える上で重要と考えています。

学長補佐（IR 担当）兼 IR 室長　平　伸二

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言　1
活動報告　2
IR ミニ講座　2

活動報告　大学評価･IR 担当者集会 2020 参加報告

大学評価・IR 担当者集会 2020 メインセッション「コロナ時代における評価・IR 活動の課題と今後の展望」

主催　大学評価コンソーシアム

日時　2020 年 9 月 23 日 13:00～14:30　（ビデオ会議システム Zoom による遠隔講演）

メインセッションは「コロナ時代における評価・IR 活動の課題と今後の展望」を主題に、九州大学小湊卓夫氏による講演が行われました。新型コロナウイルス感染症による日本の大学への影響、および評価・IR 活動への影響について、資料をもとに報告されました。日本の大学への影響については、文科省調査(9 月調査)による全国の大学・高専(849 校)の後期授業の対面・遠隔授業の実施方針(表 1)が紹介されました。本学は図 1 のように、10 月 1 日現在、後期開講 1067 科目中、対面授業が 68.7%、遠隔授業が 20.1%、その他が 10.9%、別途指示が 0.3%であり、「7 割が対面」で実施しています。

	ほとんど対面	7割が対面	おおむね半々	3割が対面	ほとんど遠隔
国立大学	6校(7.2%)	6校(7.2%)	22校(26.5%)	43校(51.8%)	6校(7.2%)
公立大学	17校(18.7%)	9校(9.9%)	20校(22.0%)	24校(26.4%)	21校(23.1%)
私立大学	138校(21.2%)	76校(11.7%)	165校(25.4%)	140校(21.5%)	131校(20.2%)
高専	12校(48.0%)	3校(11.1%)	5校(25.0%)	2校(8.0%)	3校(12.0%)
(全体)	173校(20.4%)	94校(11.1%)	212校(25.0%)	209校(24.6%)	161校(19.0%)

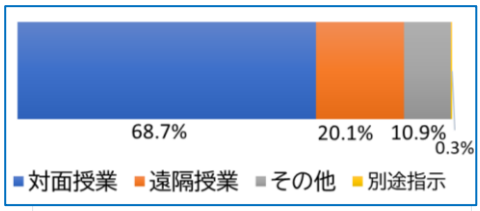

表 1 対面･遠隔授業の割合について
(文部科学省「大学等における後期授業の実施方針の調査について」)

図 1 本学の後期授業形態

講演は続いて大学評価コンソーシアムによる大学評価・IR 担当者を対象としたアンケート調査の中間報告がなされ、コロナ禍において多くの機関が、評価業務、IR 業務ともに影響を受け、調査・活動の実施方法の見直しや変更、延期を伴う対応となったと報告がありました。活動量は総じて増加したようであり、本来の業務の増加だけでなく、他業務との連携や兼務による増加が見られるとの報告でした。本学 IR 室のメンバーも他業務との連携でコロナ禍対応業務の支援を行っております。ウィズコロナ期において IR 業務を見直す必要性を感じました。　（記谷　記）

IRer ミニ講座
第 3 回 エンロールメント･マネジメント(EM) <2>

学生フロー

学生の身分異動を単年度ごとに計数し、入学、退学、転学とそれぞれ個別の事象として断片化するのでなく、大学全体、あるいは学科に在籍する学生数の推移としてとらえることを学生フローとよびます。学生フローに関しては中退行動の理論的解明、学習準備、クラス配置、カリキュラムと成績評価、キャンパスの雰囲気という業務があるといわれています。いずれも中退行動と中退者数に影響する業務であり、異動者数、プレースメントテストや成績、GPA などの量的データに加え、学生アンケートや印象評定などの質的データを使って支援や対策について計画立案や意思決定を行うことが求められます。

参考: 「大学の IR ―意思決定支援のための情報収集と分析」 小林雅之・山田礼子(編著)

（記谷　記）

編集後記

コロナとともに IR 業務をどのように進めていくのかを検討しているところです。まずはエンロールメントマネージメントを志向し、分析、活用のプロセスを定着させることに努めます。

IR ニュース<第 8 号>
2020 年 10 月末日発行

編　　集　　IR 室
編集委員　　平　伸二
　　片桐 重和
　　記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡ください。
Email : irwg@fukuyama-u.ac.jp